

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：34604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02210

研究課題名(和文)台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼の調査・研究

研究課題名(英文) Research and Study on Taoist Rituals of the Black-headed Taoists in the Northern Area of Taiwan

研究代表者

山田 明広 (YAMADA, AKIHIRO)

奈良学園大学・人間教育学部・専任講師

研究者番号：80511683

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現地調査と文献読解を組み合わせた研究方法によって台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼の具体像を明らかにするとともに、同地域内での儀礼の差異および他地域の烏頭道士の儀礼との差異について検討した。本研究を通して、淡水地区の烏頭道士の儀礼は同地区の釈教(民間仏教の一種)の儀礼の影響を強く受けており、かつ民間習俗の要素の占める割合が高いが、一方、新竹・苗栗地区の烏頭道士の儀礼は、比較的道教儀礼の伝統の純粋性を保っており、台湾中南部の烏頭道士の儀礼とも内容的に近いということが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、以下の3点においてその学術的特徴がある。1.台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼というこれまであまり注目されていない事象に取り組み、明らかにしている、2.台湾において同系統の道士が行う儀礼にも地域差が存在するという事実を実証している、3.現地調査と文献読解を組み合わせた研究方法を用い、伝承系統という歴史的な縦の時間軸による視点と他の儀礼との相互影響という共時的な横の時間軸による視点の両方から研究対象にアプローチしており、その研究方法および研究視点が学際的かつ革新的である。

研究成果の概要(英文)：In this study, the specific image of the taoist rituals in northern Taiwan was elucidated using a research method that combines field surveys and literature reading, and the differences between the rituals within the same region and the black-headed taoist of other regions were considered. This study revealed the rituals of the black-headed taoist of the Tamsui district are strongly influenced by the rituals of Shijiao (a type of folk Buddhism) of the same district, and the proportion of folk customs factor in its rituals is high, and in contrast, the rituals of the black-headed Taoists in the Hsinchu-Miaoli district crowd relatively retain the purity of the tradition of the taoist rituals and are more similar in content to those of the black-headed taoists in central and southern Taiwan.

研究分野：中国哲学

キーワード：道教 道教儀礼 烏頭道士 台湾 台湾北部地域 淡水 新竹 苗栗

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 現在、台湾で道教儀礼の執行を担っている道士たちは、主に台湾中北部に分布する「紅頭道士」と主に台湾中南部に分布する「烏頭道士」の二種類に大別することができる。両者はその伝統から判断すると、いずれも道教史上「正一派」と呼ばれる教派に分類することができるが、しかし、両者の間には、烏頭道士は死者救済儀礼と生者救済儀礼のいずれも行うが、紅頭道士は生者救済儀礼のみしか行わないといった極めて鮮明な職能上の差異が見られる。一方、同種に分類される道士であっても、その居住する地域が異なれば、その儀礼の内容や実施方法などが異なってくる。

(2) 台湾の道教儀礼に関する先行研究の多くは、専ら台南地域という一地域の道教儀礼のみを研究対象とするものであるか、あるいは台北・基隆地域の紅頭道士が行う道教儀礼と台南地域の烏頭道士が行う道教儀礼と比較するものであり、これら以外の地域の道教儀礼を研究対象としたものは未だごく少数しか存在せず、学术界では、実際のところ、同種に分類される道士が行う儀礼に地域差があるということはあまり認識されていない。

(3) 報告者は、2003年以降、上述のような研究状況に留意しつつ、まず、台湾南部地域(台南地域と高雄・屏東地域を合わせた地域とする)の烏頭道士の儀礼、中でも功德儀礼(死者救済・追善供養の儀礼)について、台南地域と高雄・屏東地域との間の共通性や差異性を明らかにすることを中心にその全体像を明らかにした。次いで、彰化県・台中市・南投県を中心とする台湾中部地域の烏頭道士の儀礼についても、功德儀礼や普度儀礼(無縁死者救済儀礼)を中心に、その内容や台湾南部地域の烏頭道士の儀礼との間に見られる差異などを明らかにしてきた。

(4) 主に台湾中南部に分布する烏頭道士は、実際には、少数ではあるものの、新北市、台北市、桃園市、新竹県市、苗栗県といった台湾北部地域にも分布している。報告者は、かつて台北市萬華区、新北市淡水区、新竹市、苗栗県の烏頭道士の儀礼を数例調査し、台湾南部地域や中部地域の烏頭道士のもの比べて科目構成や儀礼の実施方法、儀礼文書の内容、音楽など種々の点において相違が見られることに気付いた。また、同じ台湾北部地域の烏頭道士の儀礼であっても、地区が異なればいくらか相違が見られることにも気付いた。さらに、同地域には釈教(民間仏教の一つ)の香花和尚が多数存在するが、新北市淡水区および台北市萬華区の烏頭道士の儀礼では、同地域の釈教の儀礼の影響と思われる動作が見られるとともに、釈教の香花和尚が道服を来て儀礼に補助として参加するという現象さえ見られた。

(5) 台湾北部地域の烏頭道士の儀礼に関する学術的研究について見てみると、新竹市のものについては、Michael R. Sasoが新竹地区の道教の科儀書を集めて出版した『莊林繞道蔵』(成文出版社、1975年)などいくつかの研究業績が公刊されており、いまだ十分とは言えないもののある程度分かるようになってきている。しかし、その他の地区のものについては、わずかに蕭進銘「淡水靈寶道壇の功德儀式——以混玄壇為核心的探討」(『民俗曲芸』第173期、2011年)という新北市淡水区の烏頭道士の功德儀礼に関する論文1篇が存在するのみであり、ほとんど分からないといった状況にある。

(6) 報告者の経験を生かして上記のようなあまり研究されていない台湾北部地域の烏頭道士の儀礼を本格的に研究し、ゆくゆくは台湾全土の烏頭道士の儀礼について明らかにしたいと考え、「台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼の調査・研究」という研究課題を着想した。

### 2. 研究の目的

本研究は、台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼という従来あまり研究の進んでいない事象の全容を現地調査と文献読解を有機的に組み合わせた研究方法によって総合的に解明することにより、学术界に新たな知見をもたらすことを目的とする。具体的には、以下の四つの課題を遂行することを目標とする。

台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼を詳細に描写する。

台湾北部地域という限られた範囲内にいかなる儀礼の地域差が存在するのか解明する。

台湾南部および中部地域の烏頭道士の儀礼と比較していかなる差異が見られるのか示す。

同地域内の紅頭道士および釈教の香花和尚の儀礼との間にいかなる影響関係が見られ、なぜその影響関係が生じたか考察する。

### 3. 研究の方法

(1) 台湾北部地域にて、儀礼が行われている現場に出向きビデオおよび写真撮影しつつメモ

を取る、道士・香花和尚宅を訪れて聞き取り調査を行う、といった主として二種類の方法を用い、道教および釈教の儀礼、現地の習俗などの現地調査を行う。

(2) 収集した台湾北部地域の道教および釈教の儀礼、現地の習俗などに関する文字資料（科儀書、儀礼文書等）・画像・映像資料の整理を行い、整理した文字資料と画像・映像資料とを対照させながら読解・分析する。この作業を通して、儀礼を行う際に使用される文字資料の内容を理解するとともに、儀礼の流れを細かな部分まで把握する。

(3) 道士への聞き取り、その家の族譜の読解、科儀書・儀礼文書などに見える関連記載の分析により、調査した道壇の系譜および原籍地を明らかにする。併せて、地方志や参考文献などを用いて対象の道士が居住する地区の原籍地も確認する。

(4) (1)～(2)の結果を総合することにより、台湾北部地域の烏頭道士の儀礼について、道壇ごとに、儀礼の種類、各儀礼の実施意義、各儀礼の実施方法、使用される科儀書および儀礼文書の種類および内容などについて詳細に描写する。さらに、それらを相互に比較することで、台湾北部地域という限定された地域内における儀礼の地域差について検討する。

(5) (4)の結果を利用して、台湾北部地域の烏頭道士の儀礼と報告者がこれまで調査・研究してきた台湾南部および中部地域の烏頭道士の儀礼を比較し、共通点および相違点を洗い出す。また、(3)の結果なども利用して、その差異が見られる要因についても考察する。

(6) (1)～(2)および(4)の結果を利用して、台湾北部地域の烏頭道士の儀礼と同地域の紅頭道士および香花和尚の儀礼から互いに類似している儀礼あるいは動作を抽出して比較し、台湾北部地域の烏頭道士の儀礼と同地域の紅頭道士および香花和尚の儀礼に影響関係が存在するかどうか、存在する場合、いかなる影響関係が存在するのかを考察する。併せて、なぜその影響関係が存在するのかについて、(1)～(2)などで儀礼を整理する際に併せて整理した現地の習俗などを手掛かりとして考察する。

#### 4. 研究成果

本研究では、主として、(1)新北市淡水区の烏頭道士の道教儀礼、(2)新竹市の烏頭道士の道教儀礼、(3)苗栗県後龍鎮の烏頭道士の道教儀礼に関する調査・研究を行った。以下、各儀礼についてその調査・研究成果を述べる。

(1) 新北市淡水区の烏頭道士の道教儀礼については、主として、功德儀礼、祭解儀礼、普度法会、その他の調査・研究を行った。また、適宜、訪問・聞き取り調査も実施した。

##### 功德儀礼

合わせて三度に渡り調査を実施。一度目は2018年3月20～21日に同区の混玄壇により行われた三七功德の調査を、二度目は2018年8月17日～8月18日に同じく混玄壇により行われた七七功德（出殯功德）の調査を、そして、三度目は2019年11月22日～24日に混玄壇により行われた七七功德の調査を行った。いずれの功德儀礼も一朝（1日規模）のものであったが、これらの調査を通して、新北市淡水区の烏頭道士の一朝（1日規模）の功德儀礼の科儀構成がどのようになるのかおおよそ理解できたとともに、さらに、通常死の場合に行われる同規模の功德ならば、三七功德であろうと七七功德であろうとその科儀構成に大きな差はないということも分かった。また、使用される儀礼文書の種類や数量についても知ることができたとともに、その大部分を撮影することができた。さらに、2018年2月27日および2019年2月24日に混玄壇・張嘉霖道長に対して聞き取り調査を行うことで、同地区では、亡者が横死した場合、釈教の香花和尚は打枉死城科儀という特別な儀礼を行うが、道教の烏頭道士は行わないということ、ただし亡者が出血死した場合には、打血盆科儀という特別な儀礼を行うということ、また、普施科儀は、当日に請神を行っている場合には実施するが、請神を行っていない場合には実施しないということなど、調査だけでは分からないことおよび調査時に疑問に思われたことを解決することができた。上記の調査結果は、関西大学東西学術研究所2019年度第12回研究例会「中国・日本の宗教と儀礼をめぐって」（2019年12月）において「台湾北部淡水地区の烏頭道士の功德儀礼について」というタイトルにて口頭発表を行った。

##### 祭解儀礼

合わせて二度に渡り調査を実施。一度目は2017年2月27日に、二度目は2018年3月6日に、いずれも淡水清水巖にて同区の混真壇により行われたものを調査した。以上の調査を通して、同儀礼のほぼ全過程を撮影することができたほか、同儀礼において使用される疏文をも撮影することもできた。本儀礼は、同地区あるいは近隣地区の三奶派の法師が行うものと非常に類似しており、今後、両者の比較研究を行う必要があると思われる。

##### 普度法会

2017年9月5日に淡水油車口蘇府王爺廟にて混真壇により行われたものの調査を実施。本普度法会は非常に小規模なものであり、無縁死者に対する供物等は準備されていたものの、供物を投

げる動作を伴う焰口科儀や蒙山科儀のような科儀は行われなかった。このような供物を投げる動作を伴わない方法での普度は、前述の功德儀礼において行われる普度(普施)も同様であった。報告者が2005年に調査した混玄壇による普度法会では、供物を投げる動作を伴う儀礼が行われたことから考えると、同区では、小規模な普度においては、供物を投げる動作を伴う儀礼を行わないこともあるということが分かる。

#### その他

2017年9月5日に淡水清水巖にて混真壇による犒軍儀式の調査を行い、また、2018年2月27日には同区金心宮にて混玄壇・張嘉霖道長による収驚儀礼の調査を行った。聞き取りによれば、いずれも科儀書は無く、口伝であるようである。報告者は、残念ながら、混真壇や混玄壇の道長と口伝の内容の教示を受けるほどの関係性をいまだ築けていないため、具体的内容の分析は困難であるかと思われるが、他地域の同種の儀礼との比較研究など引き続きできる限りの研究を進めていきたい。

#### 訪問・聞き取り調査

合わせて三度に渡り実施。まず、2018年2月27日および2019年2月24日の2回に渡り混玄壇・張嘉霖道長が経営する金心宮を訪問し、同区の道教儀礼に関する聞き取り調査を行った。これにより、淡水区における烏頭道士の活動状況や烏頭道士と他の宗教職能者および周辺地域との関わり、淡水区の人々の主たる原籍地、原籍地における信仰と淡水地域における信仰との相関性などといった事柄について知ることができた。さらに、2019年3月6日には真理大学准教授・蕭進銘氏を訪問し、淡水地区を含む台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼に関する情報および氏がかつて調査した画像・映像資料の提供を受けた。これにより、儀礼を行う際に使用する科儀書や文書といった極めて入所困難なものに関する画像資料を入手することができた。

(2) 新竹市の烏頭道士の道教儀礼については、普度法会に関わる儀礼の調査を二度に渡って実施。まず、2018年8月22日に新竹市南星宮にて普度法会の調査を行った。本法会は、無縁死者救済だけでなく、先祖や水子など様々な亡魂の追善供養も目的として行われるものであるため、通常の普度法会において行われる儀礼のほかに、血湖に関する儀礼など、新竹市の烏頭道士が行う多くの種類の科儀を調査することができた。二度目は、2019年8月11日に同じく新竹市南星宮にて「黄籙五苦論燈儀」というこれまで未見の儀礼の調査を行った。本儀礼は、前述の南星宮にて行われる普度法会の前日に行われるもので、基本的には亡魂を地獄から救済することを目的とする儀礼である。本儀礼は、Michael R. Sasoの『莊林統道蔵』中には見られないものの、一方で現行『道蔵』中には見られるものであり、同地域の道教儀礼の伝承系統について知る上で大きな手がかりになると考えられる。

(3) 苗栗県後龍鎮の烏頭道士の道教儀礼については、普度法会、超抜法会、礼斗法会、功德儀礼の調査・研究を行った。

#### 普度法会

2019年8月14日～15日に後龍慈雲宮にて同地区の法頭壇による普度法会の調査を実施。同地区の烏頭道士の普度儀礼の大まかな流れや主要な科儀について知ることができた。

#### 超抜法会

2019年8月24日～28日に後龍萬善祠百姓公にて法頭壇による5日間の超抜法会(死者追善供養の法会)の調査を実施。前述のと合わせることで、発表、祝聖、献供などといった生者救済儀礼と死者救済儀礼儀礼どちらにおいても行われる、同地区にて主要な道教儀礼に対する理解が深まった。また、早朝道場や道場進表といった小規模の死者救済儀礼では行われることのない儀礼、さらには、水死者や難産死者救済儀礼などといった異常死者救済儀礼なども調査することができ、非常に大きな収穫となった。

#### 礼斗法会

2019年9月14日～16日に後龍山邊媽祖宮にて同地区の普玄壇による3日間の礼斗法会の調査を実施。前述のと合わせることで、同地区の生者救済儀礼を構成する科儀にはいかなるものがあり、それはいかなる様相であるのか理解を深めることができた。また、七星造橋科儀という小法事も調査することができ、今後、法師の儀礼との比較研究を行う糸口を得た。

#### 功德儀礼

2019年9月15日に普玄壇による頭七功德儀礼の調査を実施。同地区の功德儀礼を構成する基本的な科儀の種類とその様相について知ることができた。ただし、同地区の功德儀礼の特色ともいえる煉度科儀は頭七功德儀礼であるため行われず、調査できなかった。

(4) 以上の(1)～(3)より、台湾北部地域の烏頭道士の儀礼について、以下のことが判明した。

新北市淡水区の烏頭道士は、生者救済儀礼を行う場合、道教式の道袍を身に纏うが、死者救済儀礼を行う場合には、釈教の香花和尚と同様の衣装を身に纏う。一方、新竹・苗栗地区の烏頭道士は、生者救済儀礼と死者救済儀礼とに関わらず道教式の道袍を身に纏う。

新北市淡水区の烏頭道士が儀礼を行う場合、釈教の香花和尚がその道士団に加わることがあるが、新竹・苗栗地区の烏頭道士が儀礼を行う場合、そのようなことは基本的にない。

新北市淡水区の烏頭道士の儀礼における動作には、同地区の釈教の香花和尚の儀礼における動作と類似ないし共通しているものが多々見られる。一方、新竹・苗栗地区の烏頭道士の儀礼の

うち「封鬼門」において、台湾北部地域の紅頭道士のものと類似の動作が見られた。

新北市淡水区の烏頭道士の儀礼は、科儀書を用いないものが多く、民間習俗的要素の占める割合が比較的高い。

新竹・苗栗地区の烏頭道士が儀礼では、手訣や点指が比較的重視されているようで、祝聖における水白や各儀礼の見霊などにおいて多用される。

新竹・苗栗地区の烏頭道士の功德儀礼では、煉度科儀が基本的に行うべき儀礼となっている。

(5) 本研究においては、儀礼の台本とでも言うべき科儀書をあまり入手することができず、儀礼の細部についての分析や歴史的儀礼文献を使っての分析はあまり行えていない。また、調査・研究できる期間がかなり限られ、儀礼を調査する機会にそれほど恵まれておらず、たとえば、新竹市の烏頭道士の功德儀礼や釈教の功德儀礼などいくつかの当然調査しておくべき儀礼が未見のままである。これらの点については、今後引き続き行っていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

|                                       |                          |
|---------------------------------------|--------------------------|
| 1. 著者名<br>山田明広                        | 4. 巻<br>第7集              |
| 2. 論文標題<br>台湾道教打城科儀についての初歩的考察         | 5. 発行年<br>2017年          |
| 3. 雑誌名<br>奈良学園大学紀要                    | 6. 最初と最後の頁<br>97頁 - 109頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無               |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-                |

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 1. 著者名<br>山田明広                                  | 4. 巻<br>第2期               |
| 2. 論文標題<br>台湾道教的救済異常死者の儀式 以台南地區的對縊死者及溺水死者等的儀式為主 | 5. 発行年<br>2018年           |
| 3. 雑誌名<br>何建明主編『道教学刊』（社会科学文献出版社）                | 6. 最初と最後の頁<br>274頁 - 291頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                   | 査読の有無<br>有                |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難          | 国際共著<br>-                 |

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>山田明広                            |
| 2. 発表標題<br>臺灣道教打城科儀之地方性差異－以臺南地區與高雄・屏東地區為例－ |
| 3. 学会等名<br>道教与地方文化国際學術研討会（国際学会）            |
| 4. 発表年<br>2018年                            |

|                               |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名<br>山田明広               |
| 2. 発表標題<br>台湾道教打城科儀についての初歩的考察 |
| 3. 学会等名<br>関西大学東西学術研究所第8回研究例会 |
| 4. 発表年<br>2017年               |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>山田明広                      |
| 2. 発表標題<br>福建晉江地區的王爺信仰之初步探討          |
| 3. 学会等名<br>2017臺灣王爺信仰文化國際學術研討會（國際学会） |
| 4. 発表年<br>2017年                      |

|                               |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名<br>山田明広               |
| 2. 発表標題<br>道教の血湖地獄とその救済儀礼     |
| 3. 学会等名<br>東アジア恠異学会第114回定例研究会 |
| 4. 発表年<br>2017年               |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>山田明広  |
| 2. 発表標題<br>“Are There Any Differences in the Rites due to the Difference of the Spirits Origins of temples?: Comparison of the Rituals between Temples of Japanese Spirits and Temples of Chinese Spirits in Taiwan” |
| 3. 学会等名<br>東アジア宗教社会学会第2回年次大会（國際学会）   |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>山田明広                            |
| 2. 発表標題<br>臺灣南部道教打城科儀之初步探討 以臺南地區與高雄・屏東地區為例 |
| 3. 学会等名<br>老子道文化學術研討會（國際学会）                |
| 4. 発表年<br>2019年                            |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>山田明広                                    |
| 2. 発表標題<br>台湾北部淡水地区の烏頭道士の功德儀礼について                  |
| 3. 学会等名<br>東西学術研究所2019年度第12回研究例会「中国・日本の宗教と儀礼をめぐって」 |
| 4. 発表年<br>2019年                                    |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

|   |
|---|
| Researchmap<br><a href="https://researchmap.jp/aki-yamada/">https://researchmap.jp/aki-yamada/</a><br>奈良学園大学人間教育学部教員紹介<br><a href="http://www.naragakuen-u.jp/faculty/education/yamada_akihiro.html">http://www.naragakuen-u.jp/faculty/education/yamada_akihiro.html</a> |
|---|

|         |                           |                       |
|---------|---------------------------|-----------------------|
| 6. 研究組織 |                           |                       |
|         | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) |
|         |                           | 備考                    |